

供覧

陸軍省新聞班

参考



昭和七年四月一日
陸軍省新聞班

上海事件に對する歐米宣教師及婦人團體の運動

19

本記事は各方面より入手せるものを其の條綜合
せるものにつき陸軍省新聞班の發表として外部へ
交付せざることに取計相成度

○在支歐米宣教師の決議

昭和七年二月十二日在支歐米宣教師百五名は上海に於ける日本人側及日本軍の慘虐行爲を非難せる決議文を歐米各國に配布せるか右に對し視察の爲め上海に赴きたる日本人宣教師は左の如き回答文を發表した。

譯文

在支歐米宣教師の「アツピール」に對する日本宣教師の回答。

註、昭和七年二月十二日在支歐米宣教師百五名は日本軍が支那に於て慘虐行爲を恣にしつゝ、あり等我國を非難せる聲明書を歐米諸國に發せるに對し我宣教師のなせる回答文なり

我等日本人基督教信者一同も亦上海に於ける現在の悲しむべき状況を甚痛ましく思つて居ります。

上海の災禍に對し我々は尊敬する百五名の在支宣教師諸兄（御氏名の明示されて居らぬことは物足りないが）の述べられたると同様の驚きを感じ

じて居るものであります。我々は全人類の不安を和らげ且永遠の平和を促進せんことを、諸兄の努力に對しては衷心感謝に堪えません。然しながら我々としてはあの様な特殊の非常時に必然起るべき不幸なる行動の總てを宥すものではありませんが二月十二日發表されたる聲明書に於ける日本軍に對する激烈不可解なる非難は不公平なる偏愛の一例證として我々の看過し得ない所であります。

諸兄の「アツピール」は目覺ましき且不幸なる結果を明記することのみは腐心せられ永年繼續して居る所の基礎となるべき原因を全然不問に附して居られる様に見受けれます。

尙其等が如何なる程度迄一方に責任があり如何なる程度迄他方にあるかを指示されて居ません。換言せば事の一半のみを述べられて居るがしかも其れは偏頗なる前提に都合よきことのみを掲げられて居る様であります。

同一の主眼に忠誠を誓へる我々は宣教師一同と共に此の試練の時機に於て

敬啓久シク拜面ヲ得マセヌガ常ニ仰慕致シテ居マス
扱昨年九月十八日奉天事變勃發以來中日兩國ノ國交日ニ險惡ニ赴キ最近
上海戦争起ツテヨリハ敝國人民生命財産ノ損失得テ數ヘラレナイ程デア
リマス

生等ハ貴國人士ガ概シテ皆平和ヲ愛好サレ此大車變ヲ最大不幸トシテ等
シク切ニ憂慮セラレ居ルコトヲ克ク承知シテ居マス併シ仄ニ承ル所ニヨ
レバ貴國政府ハ上海開戦以來信書新聞ニ干涉シテ上海事變ノ真相ヲ一般
民衆ニ知ラシメナイトノコト

生等ハ貴下ト同ジク平生耶蘇基督ノ平和博愛主義ヲ服膺シ中日兩國ノ共
存共榮ノ原則ヲ尊重スルモノ故此大車變ノ經過ヲ事實ニ據リ開陳シテ謹
テ御諒承ヲ願フコト、致シマス

昨年奉天事變發生後敝國政府ハ平和解決ヲ希望シ貴國軍隊ノ進迫ニ對シ
テモ終始非抵抗政策ヲ取り只管國際聯盟ニヨル公正ノ調停ヲ求メテ居ツ
タノデアリマス何ソゾ圖ラン貴國軍事當局ハ國際公正ノ決議ヲ無視シ敝

國軍隊ノ退讓ヲハ脆弱ノ故ト做シテ東三省ヲ佔掠シ更ニ大ニ軍艦ヲ敝國
沿岸各要地ニ派遣シテ威嚇ヲ逞フスルコト、ナリマシタ
上海ハ敝國商業ノ重心デアアル貴國海軍當局ハ先ツ此地ニ難ヲ構ヘント欲
シ一月中鹽澤司令官軍艦二三十艘ヲ率ヒテ上海ニ侵入シ同時ニ貴國上海

領事モ亦敝國上海市政府ニ向ケ強硬ノ要求ヲ提出シテ曰ク此要求ニシテ
満足ナル回答ヲ得ザレバ軍ノ自由行動ヲ取ルベシト敝國上海市政府ハ上
海中外人民ノ安全ヲ慮リ已ヲ得ズ一月廿八日午後完全承諾ノ趣ヲ答ヘ貴

國領事モ此回答ヲ得テ明白ニ満足ノ意ヲ表示セラレシニ豈計ラン其夜十
一時貴國海軍司令官ハ日本居留民保護ニ藉口シテ敝國市政府ニ通告スル
ニ中國軍隊ニ限り即刻開北ヲ退去シテ貴國軍隊ノ進出ニ便スルコトヲ以

テシ之ガ回答ヲ待タズシテ同夜十一時半開北及滬寧鐵道停車場ノ敝國軍
隊ヲ攻撃アリ敝國軍隊ハ守備ノ責任上餘儀ナク起ツテ自衛ニ力ノ戰禍此
ニ於テカ遂ニ爆發敝國政府モ此ニ至リ始メテ貴國軍艦ノ來滬ハ實ニ上海
ノ土地ヲ侵シ進テ南京其他各地ヲ脅威スルモノナルヲ知リ且ツ敝國民

族生命財産ニ脅威ヲ受クルモノト認メタルヲ以テ一大決心ノ下都ヲ洛陽ニ移シ如何ナル犠牲ヲモ願ミズシテ長期ノ抵抗ヲナスコトニ定メタ
貴國在滬軍隊ハ關北ノ攻撃不利ナルニヨリ飛行機及大砲ヲ以テ我居留民密集ノ地ヲ爆撃スルコト、シ貴國陸軍第九師團及第二十四混成旅團到着後陸海空軍全力ヲ擧ゲテ猛烈ニ攻撃セシ爲、吳淞江灣ヨリ關北數里ノ地ニ至ル間貴國飛行機ノ爆撃ニヨリ一片ノ焦土ト化シ了ツタ
此處敵國商業文化ノ集中地點トシテ八個ノ大學校許多ノ工場及殊ニ有名ナル商務印書館ヤ東方圖書館ガアリ皆燒毀ヲ蒙リテ餘ス所ナク無辜ノ人民砲火ニ死スルモノ實ニ數千人

是レ貴國ガ居留民ノ生命財産ヲ保護セント欲シテ敵國人民ノ生命財産ハ則チ蹂躪シテ願ミザルモノ人道上ヨリシテ之ヲ何トカ謂ハン近頃又聞ク貴國軍隊屢々攻勢ヲ取ルモ毫モ進展ヲ見ザルニヨリ貴國政府ハ更ニ増援軍ヲ派遣セントストノコト戰禍果シテ何所迄延テ止ルコトデアアルカ敵國人ハ夙ニ承知シテ居リマス貴國大多數ノ民衆ハ皆平和ヲ主張シ軍事當局

謂所ノ武力政策ヲ驅散シテ居ナイコトヲ且貴國ノ上海ニ於テ敵國人民ニ施シタル暴舉ハ既ニ全世界ノ憤慨ヲ醸シテ居ル今ヤ舉世平和ヲ望ミ戰爭ヲ厭ヘル時貴國軍隊如何ニ強大ナリトテ如何デ全世界ノ輿論ニ敵シ得ラレマセウ生等ノ切ニ願フ所ハ貴下耶蘇基督博愛平和正義公道ノ信念ニ基キ貴國有識人士ト聯絡共同シテ輿論ヲ喚起シ政府ノ武力政策繼續ヲ制止シ平和ノ方法ヲ以テ中日兩國ノ問題ヲ解決シ兩國人民ノ友誼ヲ促進セラレシコトデアアル生等モ亦當然敵國內ニ在リテ同様努力ヲ致シマス

○日本在住の米國宣教師（八名）英國宣教師（四名）日本側宣教師五名（長尾半平、寛、松澤氏等）は上海滯在間絶えず歐米宣教師と連絡し真相の正解につき忌憚なき意見を交換し事情の闡明に努めたり

一行中のガイ博士は三月二十八日午後二時より神田區美土代町 Y.M.C. A 主催にて開催せられたる上海事件懇談會に出席し左記所見を述べた

左記

一、上海事變の發生は日支人間の感情悪化に基因し支那軍は最初日軍に對し戰意ありしを認めず當時上海には日本陸戰隊六百名にして開北には支那兵約六千名なりしを以て日本が挑戰することは無謀なりし情況にありたり

二、支那軍隊が日本租界に侵入すれば第二の尼港事件を惹起するやも知れず日本は戦闘員非戦闘員を問はず悉く抵抗する覺悟を爲し居たり

三、各國が同地警備に就きしは一月二十八日午後四時にして日本軍のみは夜間受持區域の警備に任せしなり日支軍の警備及戦闘開始につき日本は之を避けたる模様あり

ガイ博士は日支時局に關し積極的に意見の發表を避けあり而して今回海老澤亮一等と上海に於て宗教的立場より支那側基督教宣教師及有力なる信徒と會見し對日感情の一掃に努めんと稱しあり

○歐米婦人團體の運動

米國々際聯盟等が支那及滿洲に於ける日支事件に對する認識不足より不當なる決議をなせるものあり左記の如きも其の一例なり

譯文

國際婦人聯盟より某婦人に寄せたる書翰

一九三二年二月十五日

倫敦ガウアー街五十五國際會館

イー・ホースクロフト

(原文英文)

拜啓國際婦人聯盟は別紙決議文の寫數千部を調製し各國に送付せしに付御參考の爲送付申上候本會は會議を招集し別紙決議をなしたる上其れを英國政府並に壽府の國際聯盟に送付する次第に候是等の決議事項は毎日當事務所に殺到しつゝあるものに有之最近極東に於ける實情を承知せる英國の輿論を代表するものといひ得べく候

昨年九月以來英國輿論を喚起せんと試みつゝありし本會は支那に對し最大の同情を拂ふと共に支那が不戰條約並に國際聯盟規約の署名に對し忠

實なりし事を賞讃するものに有之候

本會は日本に於ても強き平和運動の存することを承知し且其反響を耳にすることも屢々有之候従つて日本に於ても結局隣邦支那との平和を保持せんとする者が勝利を得るものと信じ居る次第に候世界平和に對する唯一の希望は世界各國民により署名せられたる國際條約を支持する外無之と信するも此理由に基くものに候

決 議 (原文 英文)

- 一、本會は滿洲及支那に於ける日本軍國主義の兇暴に對し憎惡の意を表はすものなり
- 一、國際聯盟規約、不戰條約並に九ヶ國條約の署名國は日本の軍事行動に依り惹起せられたる事態が速かに終結すること並に若し日本が暴行を繼續する時は本會は各國民各別の利益上の見地よりせず世界平和の

擁護を目的とする國際的協定尊重上の立場より戦争行爲を停止せしむる爲聯盟規約中の財政、經濟條款の實施を主張す

- 一、本會は聯盟理事會並に軍縮會議が速かに各國より兵器並に軍需品の即時輸出禁止を確實ならしむる爲手段を講ずべきことを勧告す